

# 令和7年度入学者選抜学力検査問題 前期日程

## 総合問題 正解・解答例

### I

#### 問1

筆者は保育士不足の背景には、非正規化や低賃金化といった働く条件の長期的悪化による保育士になりたい人の減少があると考えている。筆者はその要因として、国が保育士配置の規制緩和を行い、低処遇の非正規保育士や無資格保育従事者を積極的に導入したこと、公立保育園への補助金を大幅に削減し、民営化を推し進めたこと、長時間労働化に伴う開所時間の延長にもかかわらず、その分の予算・人員が配置されなかったことを挙げる。

(199字)

#### 問2

本文のほか資料1でも保育士の給料の低さが最も問題視されている。本文によると、その要因は国による規制緩和、非正規化の促進や補助金の削減、不十分な予算にあることから、国は正規の保育士や適切な労働条件が確保される保育士を増やすことができるように、規制の再強化や予算の充実化により対策を進めるべきである。資料1では次いで仕事量の多さや労働時間の長さも問題視されているが、国の対策によって必要な人員が確保されればこの問題も改善される。本文や資料1では職場の人間関係や職業適性への不安、保護者対応の大変さも問題視されている。この点は資料2にあるように、保育所が普段から相談しやすい環境を整備することで対策すべきである。資料1では、勤務シフトや子育て・家事も問題視されている。資料3にあるように保育士の大半は女性であり、ライフステージに応じた配慮も必要になる傾向にあることから、資料4にあるように、保育所は妊娠中や出産後なども就労しやすいように、短時間勤務や希望に合った勤務時間帯に働ける制度を整備すべきである。

(449字)

## II

### 問1

「生きた景観」とは生活する人々の営みの変容に伴って継続的に変化する景観の捉え方である。そこに生活する人々の営みが文化的景観として表れる。人々の営みの変容によって文化的景観の姿も変化し、あるいは新たな側面が創造され、それは常に変化し続ける。著者はそれを生きた景観の動態性と呼んでいる。

例えば、現在の竹富島では赤煉瓦の家屋が沖縄らしい景観であり、それらは伝統的様式と認識され重要伝統的建造物群に選定されている。しかし、それらの歴史は浅く、伝統的とされる赤煉瓦の家屋は大正期以降に普及した。1964年の段階でも多くの母屋が草葺きであり、今の景観は継続的に変化してきた結果、新たな価値として創造されたものである。

(299字)

### 問2

まちの景観のマネジメントには生きたままその特質を活かすことが必要となる。日本の市街地は古民家やマンションなど様々な時代に建てられた建築物が混在することが多い。様々な時代の特徴が積み重なり、多様な要素が隣り合って形成された景観も都市の個性や魅力となる。

多様な要素で構成される都市は、今後も継続的な更新が想定されるため、生きた景観として評価しなければならない。歴史的建造物を保存し、周囲の建築物等をまちの特質に調和させて修景することが重要である。まちの特性を凍結的に維持する「保存」ではなく、景観の変化を許容する「保全」の考えのもと、「生きた景観」という新たな価値を創造することが必要である。

(294字)